

2025年12月期第3四半期決算

補足説明資料



株式会社テクノフレックス
証券コード:3449

1. 2025年12月期 第3四半期(中間期)決算概要 … 2

2. 2025年12月期 業績予想 … 13

3. 期末配当金(特別配当)について …17

(補足資料)
テクノフレックスの概要 … 19



▲ 半導体工場向けに真空配管のプレハブ加工を行っている
当社グループの北海道工場(北海道苫小牧市)

1. 2025年12月期 第3四半期決算概要

2025年12月期 第3四半期 連結業績 1 前年同期比・予想比



◆ 連結業績(前年同期比・予想比)

単位: 百万円

	連結業績		前年同期比 (伸長率)		通期業績予想比		
	2024_3Q	2025_3Q			期初・ 7/15修正後	計画値	進捗率
連結売上高	16,020	18,762	2,741	17.1%	期初予想	23,000	81.6%
					7/15修正予想	23,700	79.2%
連結営業利益	1,574	2,883	1,308	83.1%	期初予想	2,400	120.2%
					7/15修正予想	2,900	99.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,038	2,359	1,321	127.3%	期初予想	1,650	143.0%
					7/15修正予想	2,500	94.4%

- ✓ 当期は、期初の業績予想(2025年2月10日付開示)を上回る増益となり、同年4月24日、6月13日および7月15日の計3回業績予想の修正を開示しております。このうち上記の表では、期初および直近の7月15日付予想値との比較を表示しております。なお、6月13日付業績予想の修正は、不動産の売却が決定し、下期に特別利益を計上することから修正を行ったものです。
- ✓ 国内は半導体関連、海外は半導体関連に加え水素関連の市場で、真空機器(継手事業)や真空配管(防災・工事事業)の需要が旺盛であり、3Q累計の連結業績は増収増益となりました。
- ✓ 直近の通期業績予想(7/15修正)に対し順調に進捗しており、利益面の進捗率は3Qで90%を超えました。
- ✓ 業績予想の達成に向け、収益の積み増しに努めてまいります。

● 連結売上高

✓ その他を除く4つの事業セグメント全てが、前年同期比で増収でした。

【国内】

- ・ 半導体関連の好況が続き、真空機器(継手事業)と真空配管分野(防災・工事事業)を中心に売上を伸ばしました。

【海外】

- ・ 前期に売上を伸ばした半導体関連と水素関連の真空機器が、当期も売上を伸ばしてます。

● 連結営業利益

✓ その他を含む全ての事業セグメントが、前年同期比で増益となり、利益率も向上しました。

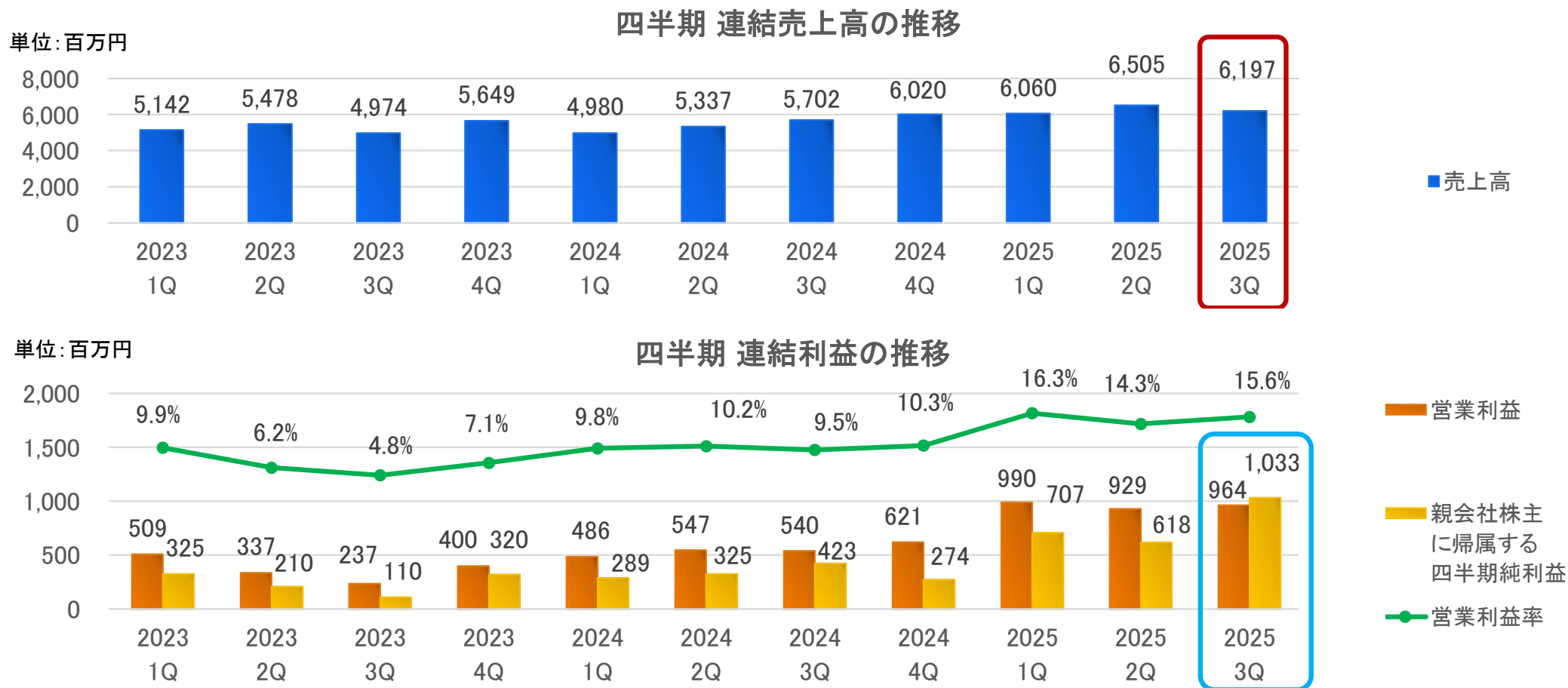
- ・ 半導体や水素関連での増収が、主な増益要因です。
- ・ フレキシブル継手(継手事業)や自動車分野(自動車・ロボット事業)は、物価高騰分の価格転嫁等により、利益率が向上しました。
- ・ 真空配管分野(防災・工事事業)は、昨年末に稼働した北海道工場の有効活用等から、利益率が向上しました。
- ・ ロボット分野は、中国市場の低迷から大口顧客で在庫調整が続き、前期は赤字となりましたが、当期は、同顧客の米国市場での売上拡大により在庫調整が落ち着いたため、黒字に回復しました。

● 親会社株主に帰属する中間純利益

- ✓ 連結営業利益の増加により、前年同期比で増益となりました。
- ✓ 当期3Qに、固定資産の売却による特別利益655百万円※を計上したため、上場来最高益となりました。

※ 詳しくは、2025年9月30日付の適時開示「(開示事項の経過)固定資産の譲渡完了および特別利益の計上ならびに期末配当(特別配当)の方針に関するお知らせ」(<https://ssl4.eir-parts.net/doc/3449/tdnet/2691798/00.pdf>)をご確認ください。

2025年12月期 第3四半期 連結業績 3 四半期業績の推移

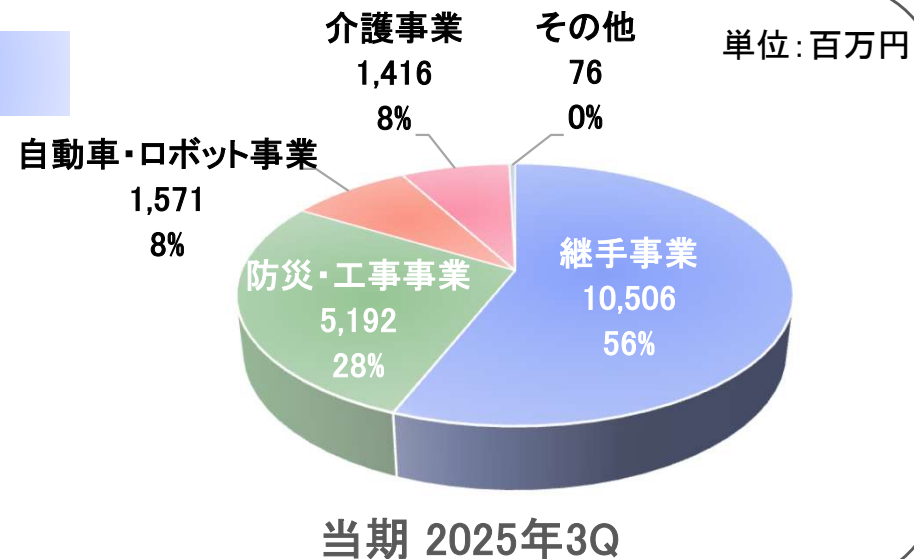
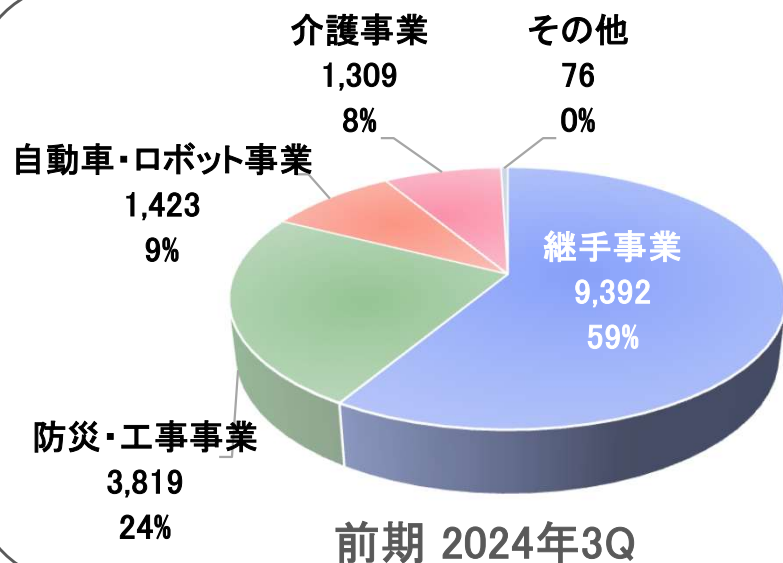


- 四半期業績は、半導体工場の設備投資や再開発事業等の大型案件を計上するタイミングで、大きく変動します。
- 当3Qに親会社株主に帰属する四半期純利益が営業利益を上回っているのは、特別利益(固定資産売却益)の計上によるものです。

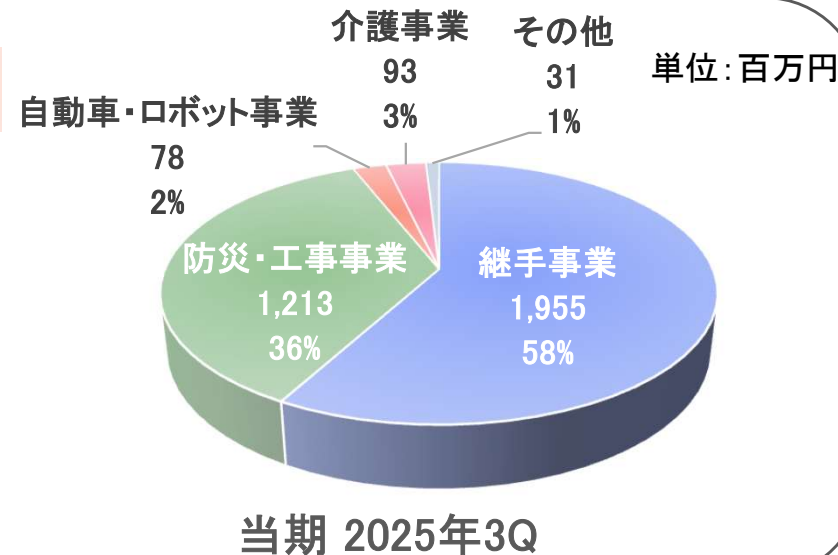
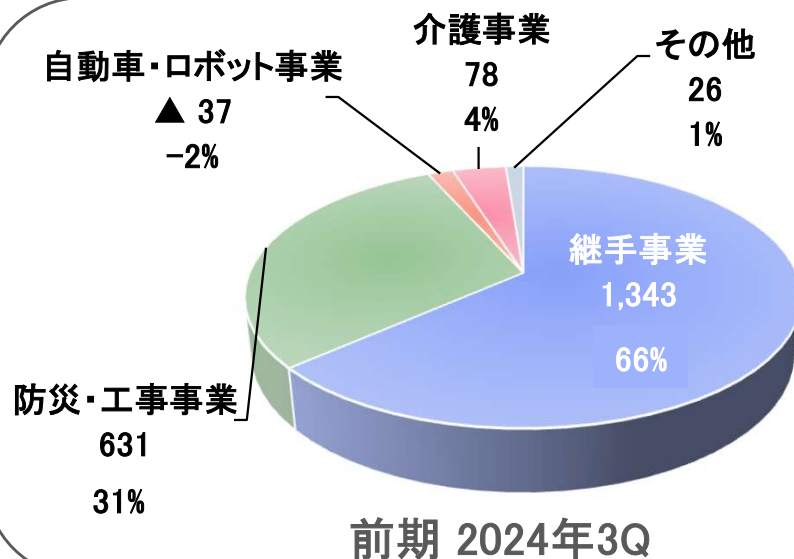
2025年12月期 第3四半期 連結業績 4 セグメント構成比



売上高



セグメント利益

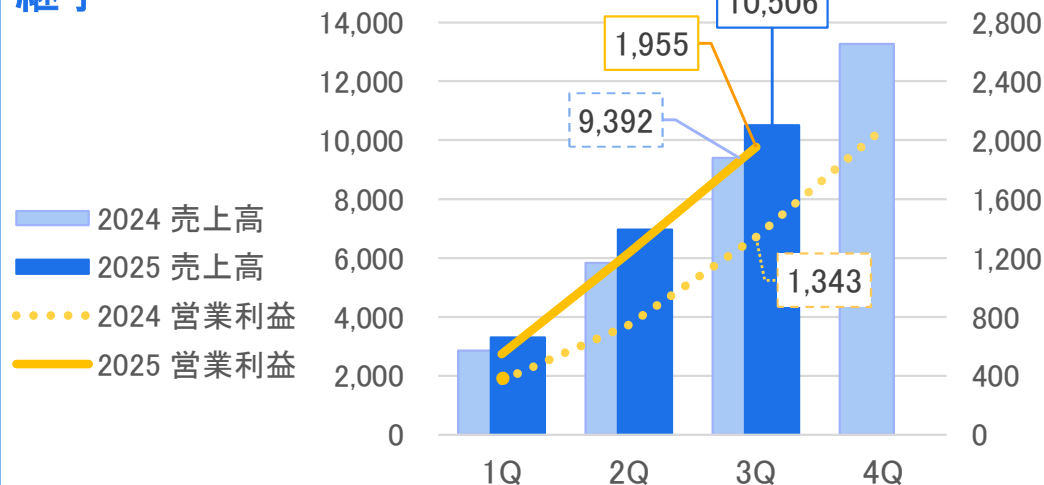


2025年12月期 第3四半期 セグメント業績 1 前期比(累計)

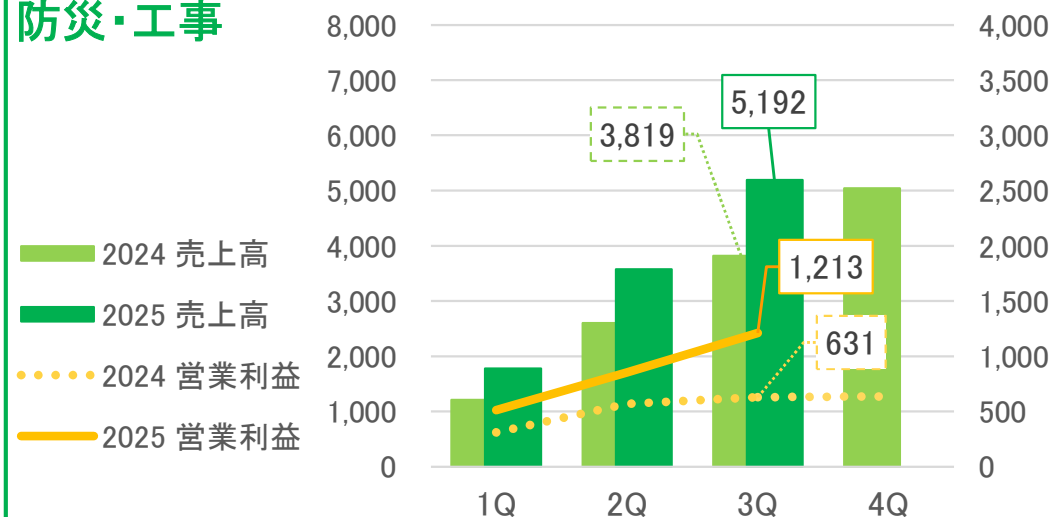


単位: 百万円

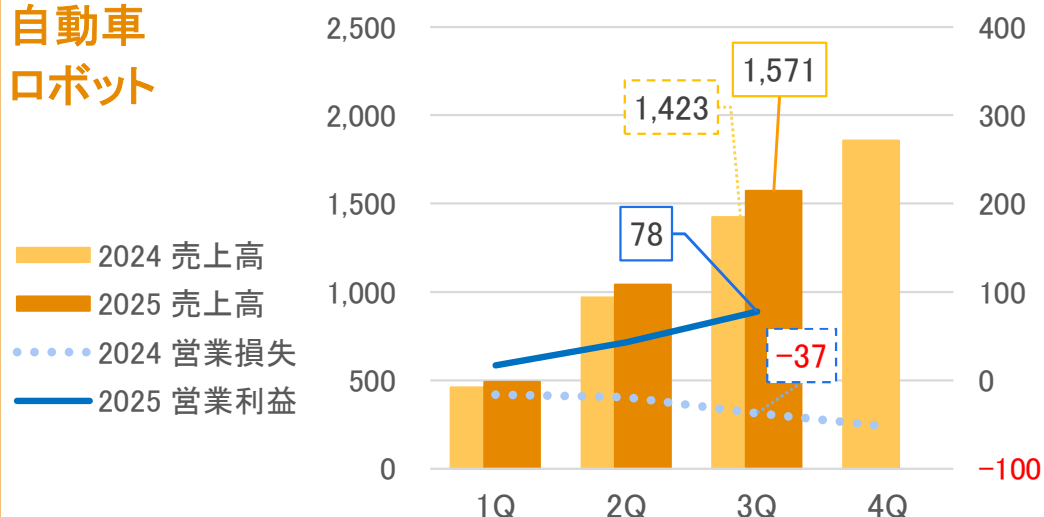
継手



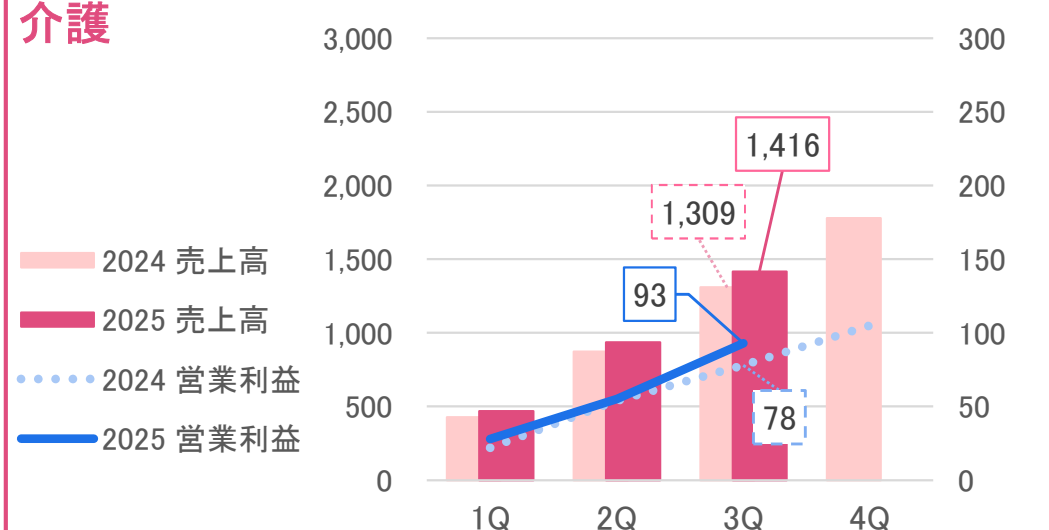
防災・工事



自動車 ロボット



介護



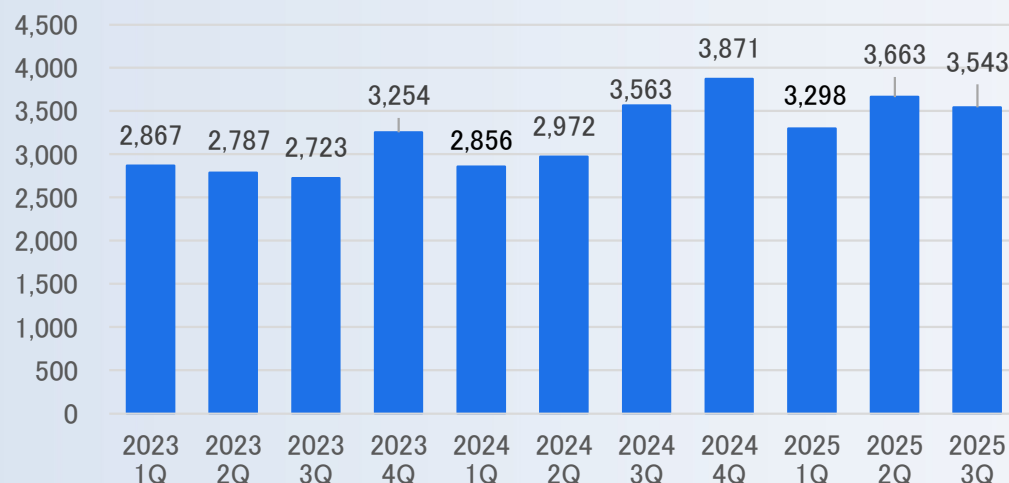
➤ その他を除く4つの事業セグメント全てが、前年同期比で増収・増益でした。

◆ 継手事業

売上高の推移

単位: 百万円

■ 売上高

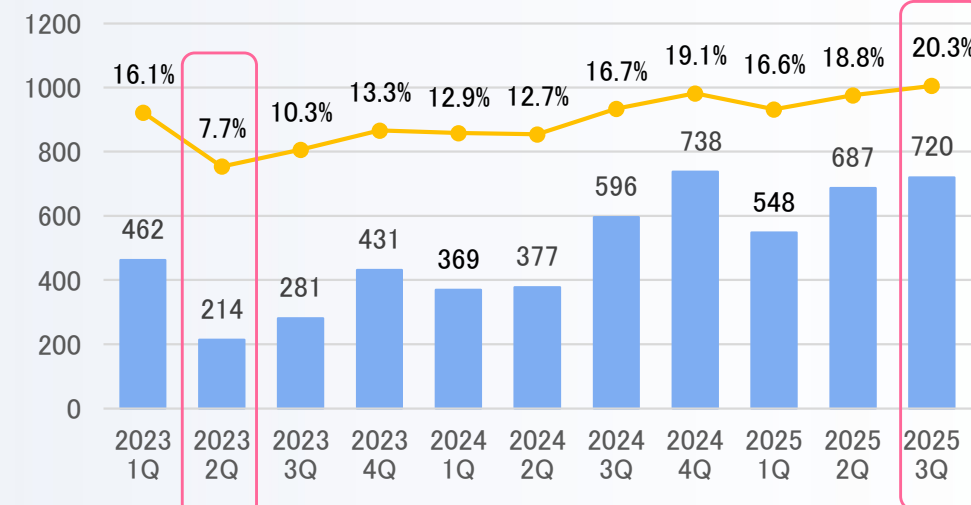


営業利益の推移

単位: 百万円

■ 営業利益

● 営業利益率



■ 売上高 10,506百万円 (前年同期比 +1,114百万円、+11.9%)

■ 営業利益 1,955百万円 (前年同期比 +611百万円、+45.5%)

➤ 当期は、半導体関連と水素関連の市場で真空機器の販売が好調であり、増収増益で推移しています。

- ・ 海外は、米国の関税交渉の影響がありましたが、半導体関連や水素関連で真空機器が好調に推移しています。
- ・ 国内は、物価高騰分の価格転嫁が進み、利益率が向上しています。
- ・ 高付加価値で利益率の高い真空機器が海外で伸びていることと、国内で価格転嫁が進んだことから、当セグメントの営業利益率は、2023年2Qの7.7%から当3Qは20.3%まで改善しました。

◆ 海外売上の状況

当期2Qは、米国の関税交渉の影響から、継手事業の海外売上が不安定でしたが、3Qになり安定してきました。

海外向けの主力製品は真空機器であり、主な販売先は下記の3社です。これら顧客からの受注が安定してきた結果、当3Qまでの海外売上高は、好調であった前期を上回る勢いで伸びています。

(A社) 水素エネルギー関連メーカー(米国)

(B社) 半導体製造装置メーカー(中国)

(C社) 半導体検査装置メーカー(米国企業のマレーシア工場)



◆ 海外売上高の推移

海外売上高は増加傾向にあり、当社が株式上場した2019年から前期2024年の間で3倍強に増加しました。

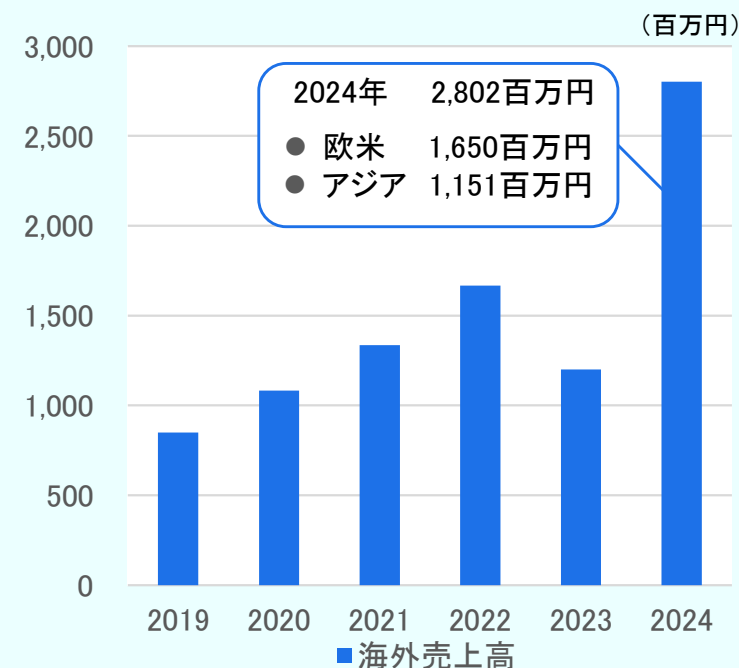
売上が伸びているのは真空機器であり、近年は、上記の主要3顧客が牽引役となり、半導体や水素関連の装置や施設向けの売上高が、増加しています。

2024年には、海外売上高比率が初めて連結売上高の10%を超え、期末の決算短信で地域別の売上高を開示しました。(右記グラフをご参照ください。)

欧米の売上高の中心は、上記A社、アジアの主要顧客は、上記B社およびC社です。

半導体や水素といった先端技術に関連する世界的な市場は今後も拡大が見込まれます。

当期は、北海道の半導体工場等の国内の設備投資に注目が集まっておりますが、当社グループは、海外市場でも確実に業績を積み上げるよう努めてまいります。

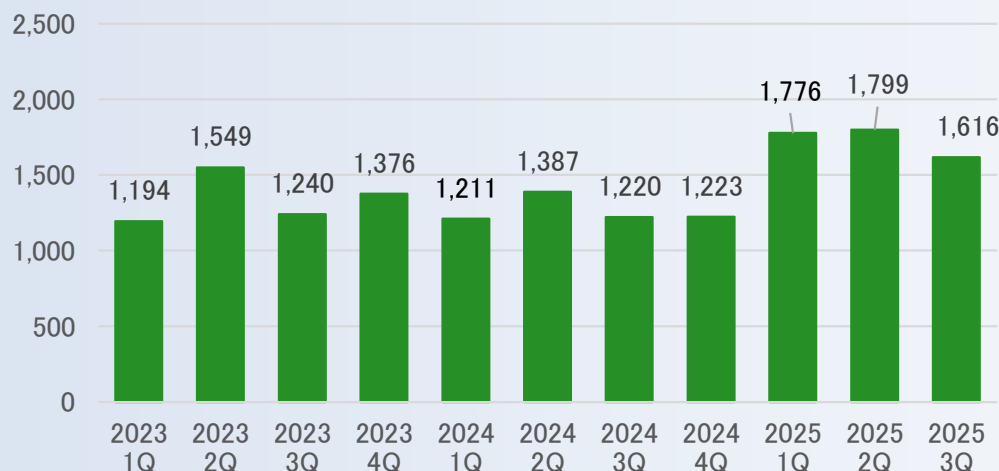


◆ 防災・工事業業

売上高の推移

単位: 百万円

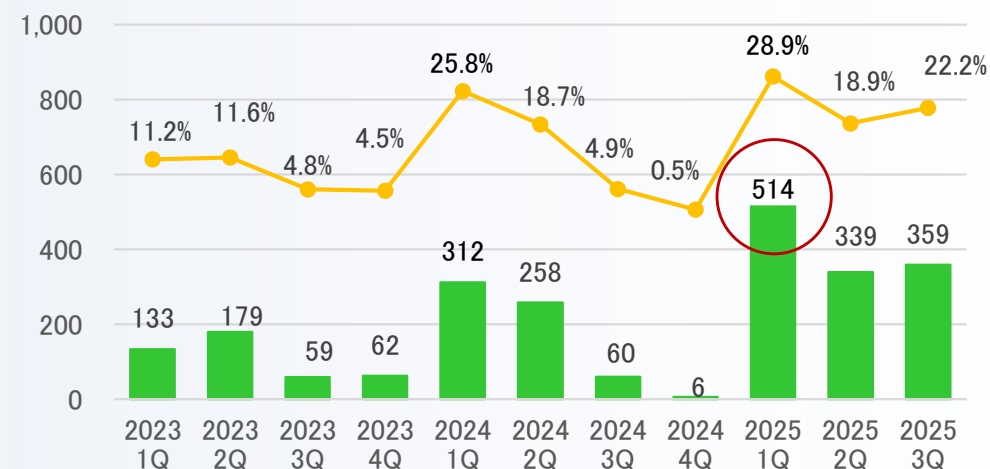
■ 売上高



営業利益の推移

単位: 百万円

■ 営業利益 ● 営業利益率



■ 売上高 5,192百万円 (前年同期比 +1,373百万円、+36.0%)

■ 営業利益 1,213百万円 (前年同期比 +581百万円、+92.1%)

➤ 前年同期比で増収増益となりました。

- ・ 当期1Qの利益率が高いのは、消防設備分野で、利益率の高い追加工事を売上計上したこと等が要因です。
- ・ 真空配管分野は、北海道の先端半導体工場に関連した設備工事により、好調に推移しています。
- ・ 消防設備分野は、建設市場が工事遅延や着工延期の発生で不安定な市況となっているものの、前年同期並み(微減)の売上となりました。
- ・ 昨年末に稼働した北海道工場の有効活用により、利益率が改善しています。

◆ 自動車・ロボット事業



■ 売上高 1,571百万円（前年同期比 +147百万円、+10.4%）

■ 営業利益 78百万円（前期は営業損失 37百万円）

➤ 前期は赤字続きでしたが、当期1Qに黒字転換し、収益が安定してまいりました。

- ロボット分野は、中国市場の低迷から大口顧客で在庫調整が続き、前期は赤字でしたが、同顧客の米国での販売増加により在庫調整がひと段落し、当期は黒字で推移しています。
- 自動車分野は、物価高騰分の価格転嫁が進み、利益率が改善してまいりました。

◆ 介護事業



■ 売上高 1,416百万円（前年同期比 +106百万円、 +8.1%）

■ 営業利益 93百万円（前年同期比 +14百万円、 +18.1%）

- 福祉用具のレンタルと販売が増収となりました。
- 販管費の増加がありましたが、福祉用具レンタル用資産の減価償却が進んだことによる原価削減等から、堅調に推移しています。

2. 2025年12月期 業績予想

2025年12月期連結業績予想 SUMMARY 1



◆ 通期連結業績予想

単位:百万円

	前期2024年 通期業績	当期2025年 通期業績予想(7月15日付) ／ 前期比	当期2025年 3Q累計業績 ／ 進捗率
連結売上高	22,041	23,700 ／ +7.5%	18,762 ／ 79.2%
連結営業利益	2,196	2,900 ／ +32.0%	2,883 ／ 99.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,313	2,500 ／ +90.4%	2,359 ／ 94.4%

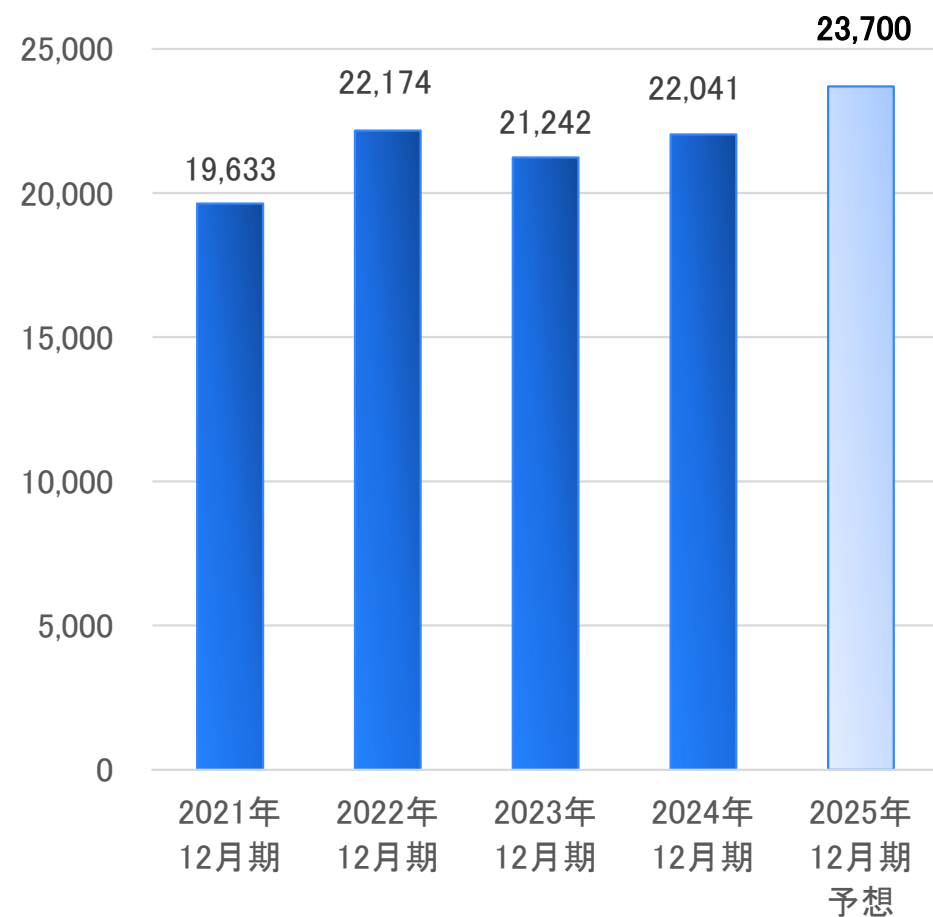
- ✓ 当期は、期初の業績予想(2025年2月10日付開示)を上回る増益となり、同年4月24日、6月13日および7月15日の計3回、業績予想の修正を開示しております。このうち上記の表では、直近の7月15日付の予想値との比較を表示しております。
- ✓ 通期業績予想の親会社株主に帰属する当期純利益には、3Qに計上した不動産売却に伴う特別利益(約655百万円の譲渡益)を含んでいます。
- ✓ 通期の業績予想は、米国の関税や為替の動向が先行き不透明であったため、当社グループの業績への影響を算定することが難しく、期初の業績予想に上記の特別利益を加味した金額としてまいりました。今後の業績推移により修正が必要となった場合には、適時に開示いたします。

2025年12月期連結業績予想(直近4年間の実績と比較)



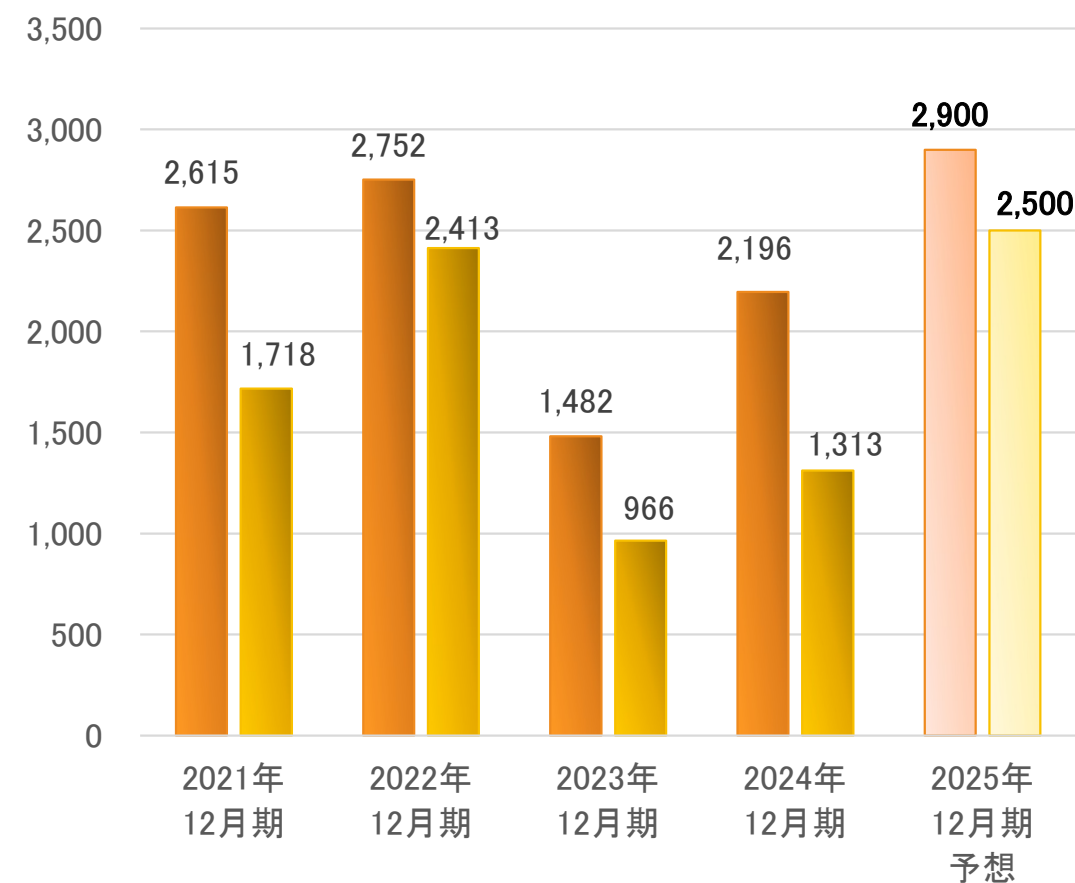
単位:百万円

連結売上高



単位:百万円

連結営業利益 親会社株主に帰属する当期純利益



◆ 継手事業

- 海外の半導体や水素関連で真空機器の需要が高まっており、増収増益となる予想です。
- 国内は、物価高騰分の価格転嫁が進んでおり、順調な着地を見込んでいます。

◆ 防災・工事事業

- 真空配管は、半導体関連を中心に好調が持続する予想です。
- 消防設備は、市況は弱含みですが、前年同期並みの着地を見込んでいます。

◆ 自動車・ロボット事業

- ロボット分野の増収増益と、自動車分野で物価高騰分の価格転嫁が進んだことから、当期は黒字での着地を見込んでいます。

◆ 介護事業

- 堅調に推移する見込みです。

3. 期末配当金(特別配当)について

期末配当金(特別配当)について



	1株あたり配当金(円)		
(基準日)	中間配当金 (2025年6月30日)	期末配当金予想 (2025年12月31日)	合計(年間配当金予想)
当期の配当額	27円00銭	27円00銭 + 特別配当	54円00銭 + 特別配当
前期の配当額	27円00銭	27円00銭	54円00銭

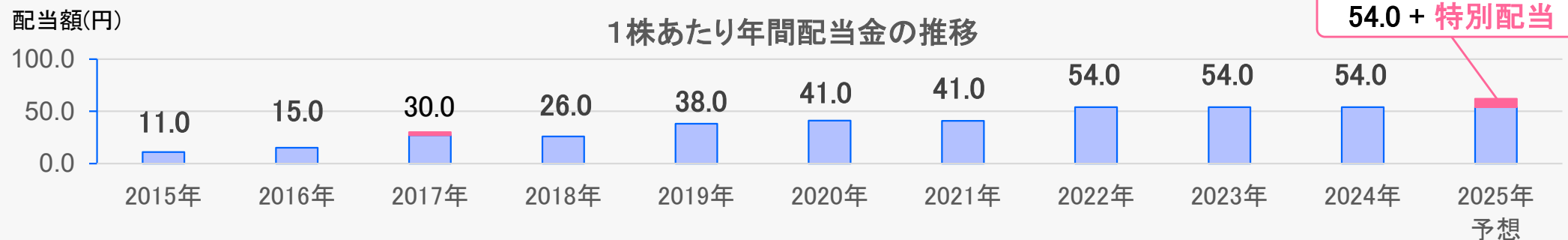
◆ 中間配当について

当期(2025年12月期)の中間配当金は、期初の配当予想のとおり、1株当たり27円00銭をお支払いいたしました。

◆ 期末および年間の配当予想について

当社は、株主様への利益還元について、安定的かつ継続的に実施することを重要な経営課題と認識し、経営環境、業績の推移、長期的な事業展開と財務体質・収益基盤の強化、及び内部留保の充実等を総合的に勘案したうえで決定し、業績連動により年間配当性向40%以上を目標とすることを基本方針としています。

当期の期末配当金につきましては、好調な業績と特別利益(固定資産売却益)の計上を勘案し、期初に公表した配当予想27円00銭に加えて、特別配当(金額未定)をお支払いする予定です。

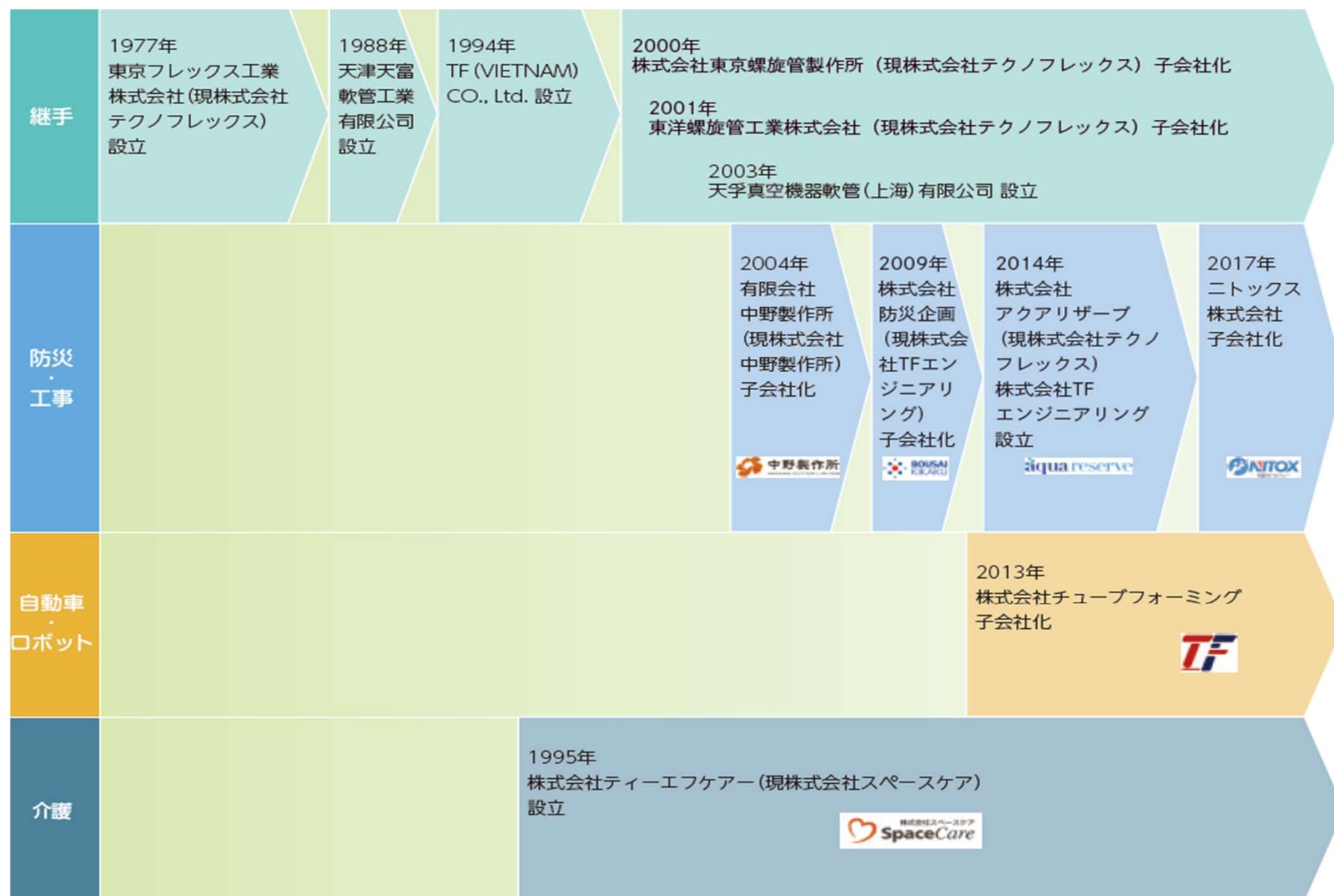


※ 2017年度の配当額30円は、創立40周年記念配当3円を含みます。

※ 2025年度は特別配当を予定しておりますが、現時点で配当額は未定です。

(補足資料) テクノフレックスの概要

会社名	株式会社テクノフレックス
代表者名	代表取締役社長 前島 岳
本社所在地	東京都台東区蔵前1丁目5番1号
資本金	10億円(2024年12月31日現在)
設立日	1977年8月
決算期	12月決算
事業内容	継手事業 / 防災・工事事業 / 自動車・ロボット事業 / 介護事業
従業員数	単体:358名(2024年12月31日現在) 連結:1,005名 ※臨時雇用者を含む



皆様の生活とのかかわり



◆ テクノフレックスグループは、「生活インフラ」「産業・先端技術」「防災」「介護」の4つの分野で、皆様の暮らす社会を支える事業を展開しています。

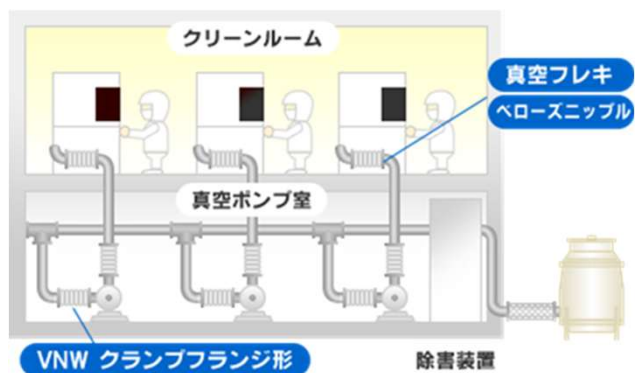


※ 上記の分野は、当社グループの事業を、皆様の生活に係る4つの分野に整理したものであり、当社の会計上の事業セグメントとは異なります。

当社グループの4つの事業セグメント



① 継手事業



② 防災・工事事業



③ 自動車・ロボット事業



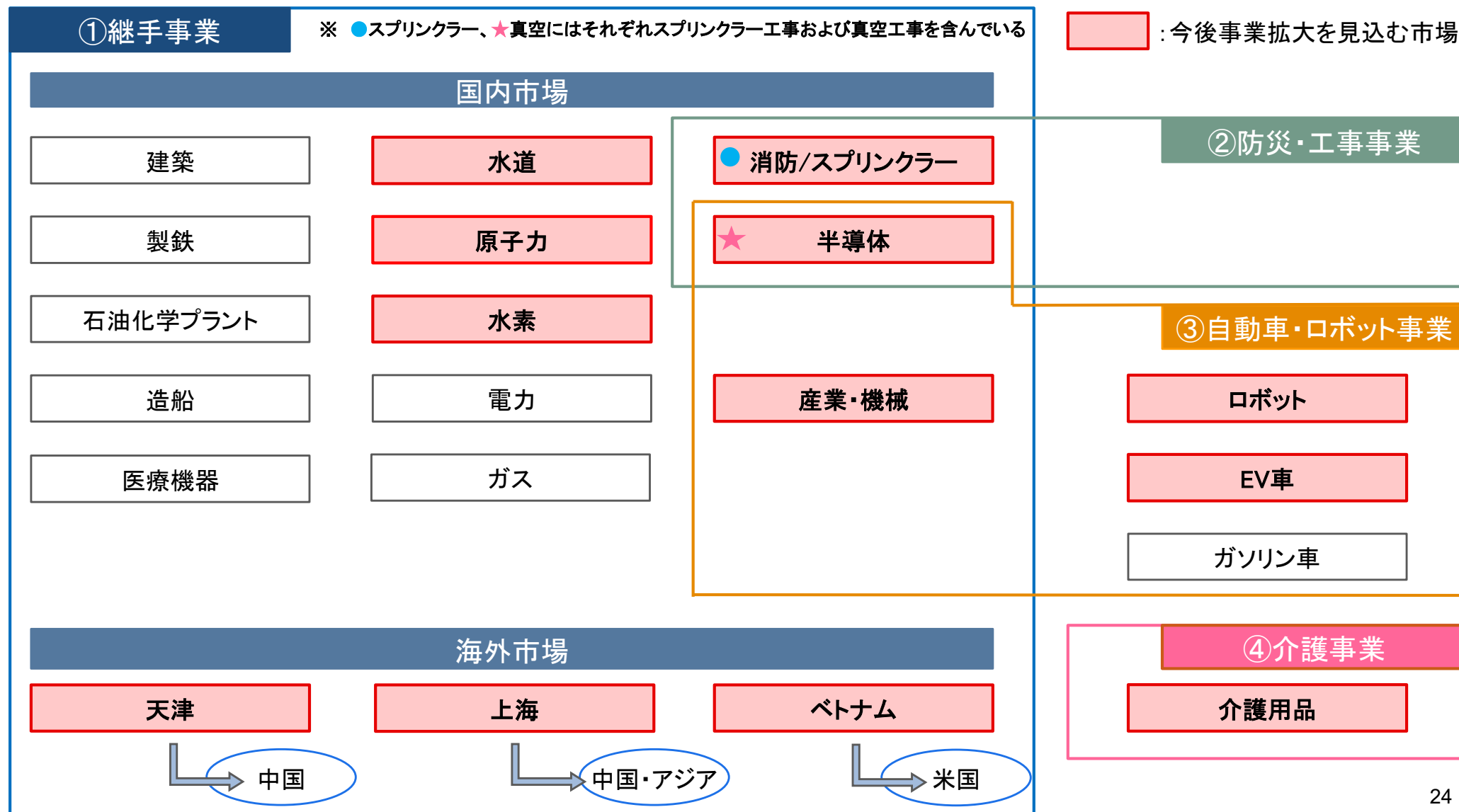
④ 介護事業



マーケットと 4つの事業セグメント



- 当グループがターゲットとするマーケットは多岐にわたり、特に事業拡大を見込む市場としては、水道(老朽化対策)、原子力、水素、消防/スプリンクラー、半導体、産業・機械、ロボット、EV車が挙げられます



テクノフレックス

◆ 管継手 : 管と管のつなぎ目

- 固定式 : T字型・L字型など固定形状の継手
- 可撓式 : 継手自体が曲がったり伸び縮みしたりできる継手

◆ テクノフレックスの管継手は大きく3種類

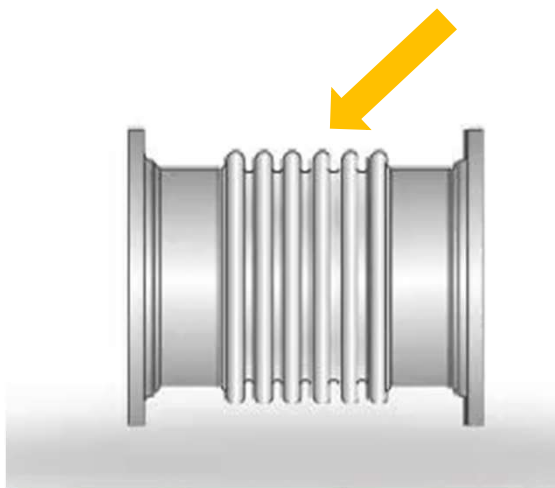
【フレキシブル継手】

全体が曲がる継手



【伸縮管継手】

波状の部分で
伸縮が可能



【真空機器】

真空配管用の
継手・金属部品



事業セグメント 1 継手事業 ①フレキシブル継手

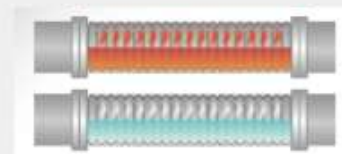
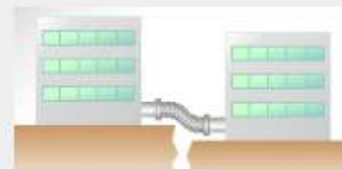


- ◆配管作業を容易に ▶ 作業効率向上。経験の浅い作業員でも設置でき、人手不足の解消にも貢献。
- ◆耐震性 ▶ 地震への対策から、耐震性の需要が高まる。

町のあちこちに
テクノフレックス



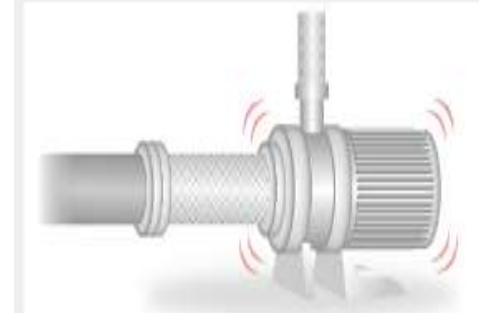
変位吸収



機械的な動作に
対応



振動吸収



作業効率



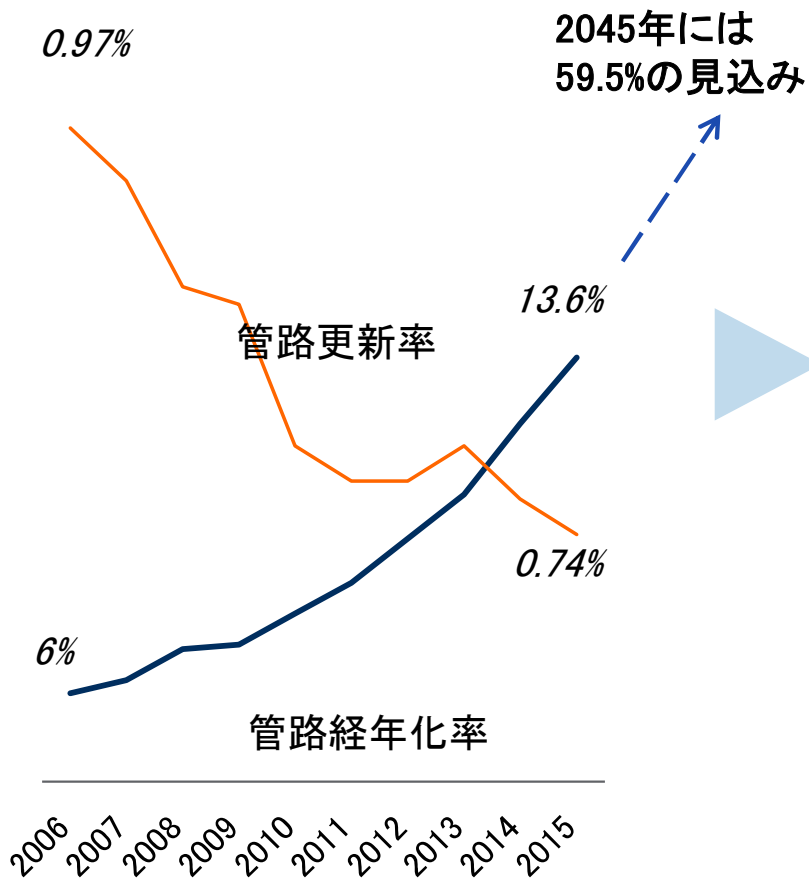
大地震で曲がっても
オイル漏れの無い
フレキシブル継手の例



事業セグメント 1 継手事業 ①フレキシブル継手 (SDF工法)



水道の老朽化は進む一方で、
管路更新が進んでいない。



SDF工法

- 掘り起こし困難な場所に最適。
- 既存の水道管の中を通して補修。



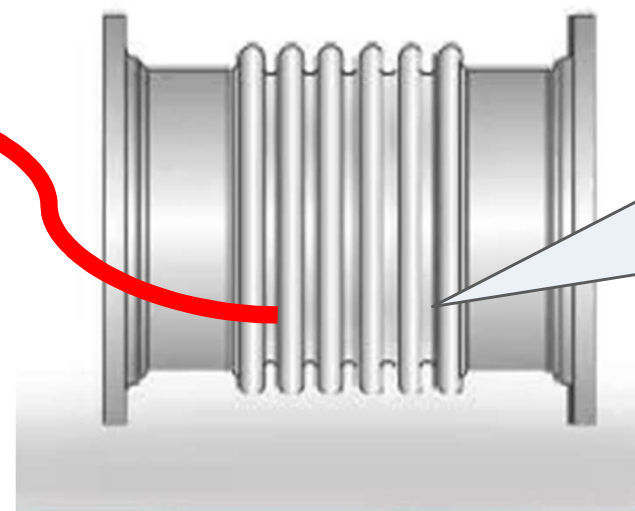
SDF工法向けにフレキ管を供給

第1回インフラメンテナンス大賞
(厚生労働大臣賞)



- ◆ 地震や熱膨張など、様々な負荷から設備機器と配管を守ります。
- ◆ 耐震性に優れ、配管の破損や脱落による流体漏洩等の2次災害を防止。
- ◆ 設置場所

エネルギー関連	石油・化学プラント、電力プラント、LNGプラント、LNG船、水素ステーション、水素運搬船など。
ライフライン	ガス・水道など。
大規模産業設備	製鉄プラントなど。



波状の部分が、
伸縮します。
角度を付けることも
できます。

- ◆ 真空配管とは、微細なゴミも嫌う設備などに設置されるクリーンな配管のこと。
 - 真空機器の製品は、厳しい検査に合格した、気密性に優れた製品。
 - ステンレス製の継手は、組織を均一化するため、熱処理を施す。
- ◆ 製品供給に加え、配管の設置工事・プレハブ加工も一括で受けられるのが、当社の強み。
- ◆ 使用用途

半導体製造装置、FPD製造装置、真空ポンプ、医療機器、医薬品・食品工場などの機械装置

装置間の真空配管

真空ポンプの配管

温度調節用の配管(チラーホース、クライオホース)



● 当期の状況

- ◆ 世界的な半導体需要の高まりから、半導体製造メーカーによる工場の新設や製造ラインの増設が活況。
- ◆ 半導体の製造(特に前工程)にはクリーンルーム等の真空空間が必要なため、真空ポンプと真空配管を設置。
 - **真空機器の需要が拡大。**
- ◆ 当社の真空機器は、**半導体・FPD等の製造装置用**、**真空ポンプ用**、**装置間真空配管用**の3つの用途で、使用。
- ◆ 真空配管の設置工事と工場でのプレハブ加工も請け負っており、製品と工事の両面でサポート。

● 成長イメージ

- ◆ 真空配管は、半導体のみならず、様々な分野の工場で需要が増加。
- ◆ 高度な医療用の診断装置に設置。
- ◆ **チラーホース、クライオホース**のマーケットシェア獲得。
 - ※ 低温・極低温の空間をつくるための冷却用長尺ホース。近年は加温でも使用。半導体工場等では、高真空・極高真空の空間をつくるためのクライオポンプとクリーンルームとをつなぐ配管に設置。

真空機器
の用途

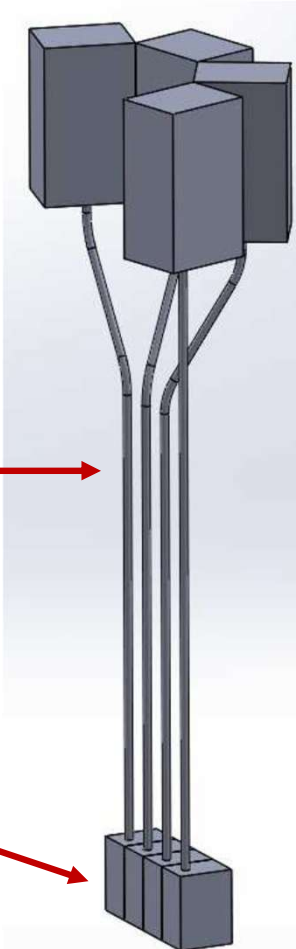
チラーホース
クライオホース

高真空化・極高真空化

半導体・FPD等の
製造装置に設置
装置メーカーへ出荷

装置間の
真空配管に設置
工場の真空配管設置現場へ出荷

真空ポンプに設置
ポンプメーカーへ出荷



- ◆ 配管を軸に、川下戦略による防災・工事事業への参入。
- ◆ 防災・工事事業には、**配管工事**と**切断装置**の2つの事業。

配管工事

- 消火設備分野
 - ・ スプリンクラー等の消火用配管や設備の設置工事
 - ・ 消火用配管のプレハブ加工
- 真空配管分野
 - ・ 半導体工場等の真空配管の設置工事
 - ・ 真空配管のプレハブ加工



自動切断機

水道管及び電柱の切断装置

- ・ 自走しながら配管や電柱を切断。
- ・ 東京都が推奨する無電柱化に貢献。



自動車・ロボット事業

- 金属塑性技術を生かした、金属部品の軽量化、材料費の低減及び強度増。
- 多くの自動車メーカーで使用。
- ロボット分野の需要拡大。
- 半導体工場等の機械装置用部品にも採用。



介護事業

- ケアプランに沿った福祉用具レンタル
- 福祉用具の販売
- 介護用マットレスの洗浄
- 住宅バリアフリー化工事
- 介護サービスの創造



テクノフレックスグループの将来を見据える上で重要なキーワード



■ 当グループを取り巻く環境に大きなインパクトを与える重要キーワードを5つピックアップしました

重要キーワード	市場にもたらす変化	該当セグメント
1 気候変動等による災害増加に対する 防災意識の高まり (国土強靱化計画)	✓ 防災設備需要の拡大 ✓ 国民の防災意識の高まり	✓ 継手事業 ✓ 防災・工事事業
2 戦後日本が築いてきた 社会インフラ老朽化対応 (水道の老朽化対応、都市再開発)	✓ 水道整備関連の予算拡充に伴う取替需要増加 ✓ 都市再開発に伴うビル等の建替需要増加	✓ 継手事業 ✓ 防災・工事事業
3 AIと自動化 (AIの普及、ロボティクス)	✓ 半導体市場の拡大 ✓ ロボット市場の拡大	✓ 継手事業 ✓ 自動車・ロボット事業
4 クリーンエネルギー (脱炭素化、脱ガソリン、脱エンジン)	✓ エンジン搭載車の減少、EV化 ✓ 化石燃料以外の燃料(水素等)の輸送・貯蔵 ✓ クリーンエネルギー設備増設	✓ 継手事業 ✓ 自動車・ロボット事業
5 ヘルスケア (地域包括ケアシステム推進)	✓ 在宅介護が支援されることによる、各家庭向け の福祉用具需要の高まり	✓ 介護事業 ✓ 自動車・ロボット事業

国内マーケットの動向サマリ(1/3)



- 産業・機械と電力は成長、製鉄、石油化学プラント、ガスは低迷を予想しています
- 建築は、中長期的には需要拡大が見込まれるものの、働き手離職等のリスクがあり、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
継手	建築	✓ 中長期的には都市再開発や防災対策に伴う需要を見込めるものの、働き手の大量離職等の不安要素があり下振れのリスクあり
	製鉄	✓ 足もとでは、鉄の供給不足が懸念材料 ✓ 中長期的には、主要販売先である造船・航空機について今後低迷が予想されることや、EV化により鉄の必要量が減少する可能性があり、見通しは厳しい
	石油化学プラント	✓ 石油化学製品の供給過多やプラスチックに対する規制強化等により、石油化学業界にて積極的な設備投資を期待することは難しいため、低迷傾向が継続するリスクあり
	産業・機械	✓ 半導体等の成長産業での設備投資が見込まれる。 ✓ メインユーザー層である中堅・中小企業の設備投資は冷え込む予想。
	ガス	✓ 人口減少や温暖化対策等による需要減少リスクあり
	電力	✓ 政府の推進する再生エネルギー導入拡大に向け、送電インフラ整備に伴う設備投資需要が見込まれることから、今後の見通しは良好

国内マーケットの動向サマリ(2/3)



- 消防・スプリンクラー、水道、半導体、水素は成長、造船は低迷を予想しています
- 原子力は堅調予測ですが、再生エネルギーの動向次第で縮退するリスクがあり、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
継手	造船	✓ 将来的には水素運搬船に期待が持てるが、コロナ禍以降は輸送量が減少し、外部環境としては厳しい見通し
	消防 スプリンクラー	✓ スプリンクラー設置義務の課される大型施設の新設が引き続き見込まれること、及び過去に設置したスプリンクラーの取替需要が見込まれることから、今後の市場動向は明るい見通し
	水道	✓ 水道管路の老朽化が進んでおり、今後の更新需要が期待される ✓ 成長ドライバーであるSDF工法に対する需要も今後増加見込み
	半導体	✓ メモリーの市場は、増減の波が大きく生じるものの、中長期的な成長が見込まれる ✓ 国内の先端半導体市場に期待
	原子力	✓ 政府による原子力活用の提言により、当面の需要は堅調予測 ✓ 一方で再生エネルギーの成長状況により、将来的には稼働が抑えられ縮退するリスクもあり
	水素	✓ 水素燃料の市場規模が今後拡大していくことに伴い、今後の見通しは良好

国内マーケットの動向サマリ(3/3)



- 消防設備工事、貯水タンク、ロボット、介護事業は成長、ガソリン車は現状維持を予想しています
- EV車は成長見込みの一方、低価格化や社会インフラ整備といった課題を有するため、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
自動車 ロボット	防災・工事	✓ 半導体工場、データセンターの増設により、消防設備工事が増加 ✓ 都市の再開発による建物の高層化・大型化で、消防設備工事が増加
	ガソリン車	✓ 自動車需要は世界的に高まりを見せる一方で、EV車の割合が増加していくことから、差し当たっては緩やかな増加/横ばい傾向が予想される
	EV車	✓ 脱炭素に向けた動きもあり、今後大きく伸長する見通し ✓ 一方で低価格化や社会インフラ整備などの課題もあり、普及が遅れるリスクもあり
	ロボット	✓ 自動車を中心とした低価格化の要請に応える形で需要を大きく拡大していく見通し
介護		✓ 少子高齢化の進行に伴い、今後の需要は引き続き伸長していく見込み ✓ 高齢者人口の増加と併せて、中国で廉価な福祉用具が流通しており、国内販売市場を開拓できる余地あり

- ✓ 本資料に記載された将来の見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき作成されたものであり、将来発生する様々な要因により、異なる結果となる可能性を含みます。
- ✓ 2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)を適用しております。
- ✓ 2021年12月期以前の実績は「収益認識に関する会計基準」を適用する前の数値を記載しております。